

令和2年9月撮影

**児玉 朋也**

- 新入学1年生にランドセル支給を検討してはどうでしょうか
- 木造化への取り組み内容をお聞かせください

**山本 孝三**

- 核兵器禁止条約の発効にあたり
- 老朽施設の点検・整備・更新について
- 交通安全対策について

**日域 究**

- 1人1台のタブレットパソコンは、教育界の黒船になり得るか
- 法務局の土地の公図の精度を高める具体的手法についての提案

**小中 真樹雄**

- 中学生のオンライン学習開始について問う
- ICT支援員の配置について問う

**藤川 和弘**

- 阿多田島「海の家あたた」について

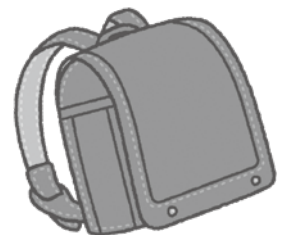


児玉 朋也

新入学のお祝いに  
ランドセル支給について

**問** 小学校入学時にはランドセルを準備する必要があります。他の市町で長年に渡り「保護者の経済的負担の軽減」「入学のお祝い」としてランドセル支給を行っているところがあるそうです。大竹市も全ての新入学児童へ支給を検討してはどうでしょうか？

**答** **教育長** ランドセルの支給又はランドセル購入費の支給は、予算を伴います。厳しい財政状況の中で、保護者の経済的負担の軽減、中学生も含めた入学のお祝いのために、できることやすべきことを慎重に検討したいと考えます。



公共建築物の木造化への  
促進について

**問** 国や地方公共団体は、低層の公共建築物の木造化を積極的に促進するものとしています。大竹市建築主体の令和2年度実施、令和3年度計画の木造率と、木材利用推進会議の協議内容をお聞かせください。

**答** 令和2年度に完成又は工事中の建築物は3件で、木造率は0%です。令和3年度以降の木造化の計画は、現時点ではありません。建築物を計画する際は、主務課と設計担当課が木材の利用も含めて協議・検討し、構造を決定しています。今後は、方針を踏まえ、推進会議を開催します。



原爆ドーム

**答** 核兵器廃絶に向けて県全体、日本全体で大きな流れをつくっていくことが重要であり、議員の皆様や市民の皆様の声とともに、関係機関とも連携しながら取り組んでいきます。

**問** 核兵器禁止条約が発効しました。被爆者・市民の運動の成果です。平和首長会議に加盟する大竹市として取り組みが求められます。

核兵器禁止条約の  
発効にあたり



山本 孝三

老朽化した施設・橋の  
補強・更新について

**問** 栗谷町後原の「登里橋」は50年前に建設されたもので、劣化・耐震性について心配されています。市の対応をお示しく下さい。

**答** 平成27年度と令和2年度に登里橋の点検を行い、直ちに補修を行う必要はない橋との判定結果が出ていますが、次の点検までに何か異常があれば、その都度対応します。

交通安全対策について

**問** 歩行者の安全が求められています。歩車分離信号機の設置基準を示し、検討し増設すべきです。また、市道の劣化が激しく、人身事故が心配される大迫谷尻線の補修をすべきです。

**答** 歩車分離信号機の設置基準は公安委員会が定めており、市の判断で設置できませんが、現場の危険度などを踏まえて警察に相談していきます。大迫・谷尻線の補修については、可能な範囲で対応していきます。

タブレットは、学校教育の  
黒船になれるか



日域 究

**問** コロナで塾に行けず成績が心配だというテレビ番組がありました。本来は学校こそが勉強するところ。

憲法は「すべて国民は、その能力に応じて、等しく教育を受ける権利を有する」とありますが、学校では単に年齢だけで学年を決め、それに合わせた教育課程で淡々と授業を進めます。能力に応じて対応しているのは残念ながら塾の方です。

ところがタブレットが登場しそれに学習ソフトを組み込めば、個人の能力に応じた対応が可能になります。子ども達が自由に勉強するので、学力差の更なる拡大もあるかも知れませんが、全員がそれぞれ能力を伸ばすのであれば良いのでは。それを抑えないようにお願いしたいと思いますが、如何でしょうか。



※文部科学省ホームページより

**答** 教育長 今、学校は児童生徒が協働的に学ぶ場でありながら、1人1人に合わせた個別・最適な学びも同時に提供することが求められています。以前から学校では、個別の指導や支援、ペアやグループでの教え合い、習熟度別指導など、日々工夫をしながら、能力に応じた教育の提供に努めています。1人1人の学習者用端末を導入することで、これまでない学習の方法が新たに加わり、可能性が広がることが期待されます。

また、直接ものを見て、体験し、友達と会話し、自分で考え、紙に書く、または体を動かしたりすることのバランスを取りながら、端末の活用を進めていく必要があると考えています。



小中 真樹雄

中学生のオンライン学習  
開始について問う

**問** ①新年度から配備の端末を持ち帰り、オンライン学習を開始するようですが、どのような方向を目指しますか。先行自治体では、機能制限の設定で使いにくいという声もありますが、対応策は。

通信環境未整備の世帯にルーターを貸し出し、契約料・通信料は保護者負担。就学援助世帯は通信費を一部援助としています。全額補助は可能ですか。  
②ICT支援員の配置について問う。  
ICT支援員の配置が予定されていますが、何人をどのように配置しますか。常駐かそれともALTのように巡回となりますか。

**答 教育長** ①端末を教材などの目標を達成するための手段、児童生徒の学びを補助するツールの1つとして活用して

いきます。  
端末の長所を生かした積極的な活用に向けて、具体的な実践例や活用例を蓄積して、市内小中学校で共有していきます。児童生徒が使用するので、フィルタリングを設定し、メールなどの機能を制限しますが、実際に使用していく中で、見直します。

就学援助世帯などには、通信費として月1000円を援助する予定です。この額は国の補助金と同額です。国・県内の状況を踏まえ、全額援助は検討していません。

②ICT支援員は、派遣契約により1名を配置し、月に15日、1日7時間の勤務で、各学校を学級数に応じて巡回する予定です。



配備のタブレット

阿多田島海の家あたたの  
管理計画について



藤川 和弘

**問** 現在、阿多田島には年間1万人以上の方が観光等の目的で来られています。そんな中、海の家あたたの利用者総数は減少しています。現在の取り組みと、灯台資料館を含めた利用者増加のため、今後の取り組みについて伺います。海の家あたたの管理を3名の方がされており、雇用を維持しながら、公共施設としての指定管理や、将来的には、民間に売却を視野に入れているのでしょうか。

もし売却を視野に入れているのであれば、民間企業の取得意向調査を行う予定はあるのでしょうか。海の家あたた施設の管理計画を伺います。  
また、予約方法・利用方法の改善の考えはありますか。特に、1カ月前までに申し込まないと宿泊利用できないのは、非常に不便です。

**答 教育長** 現在、市ホームページのほか、じゃらんネット、全国の子供の遊び場情報が閲覧できる「こーよ」などで施設を紹介しています。  
今後は、青少年の利用に支障のない範囲で、学習塾の合宿や幼稚園のお泊まり保育などでの利用の促進を検討します。指定管理や民間売却等については、民間の投資動向も悪い状況のため、現在意向調査等は考えていません。  
将来的にそつした意向がある民間企業が現れた際は、総合的に勘案した上で、指定管理や民間売却が得策と判断できれば、選択肢の1つとして検討することはできると考えます。

予約方法の改善については、1カ月前までの申請期間の短縮について、前向きに考えていきます。



海の家 あたた